



ゆき 雪は、どうしてふゆ 冬にしかふ 降らないの

ちじょうふきん きおん ひく 地上付近の気温が低いと、ゆき 雪になる

ゆき けっしょう 雪の結晶のもとになる、ちい こおり 小さな氷のつぶを、ひょうしょう 氷晶といいます。きおん ひく 気温の低いところできた雲の中には、くも なか ひょうしょう 氷晶がたくさんあります。

この ひょうしょう 氷晶は、まわりの すいじょうき あつ おお 水蒸気を集めて大きくなり、おも 重くなって落ちてきます。そして、ちじょうふきん きおん ひく 地上付近の気温が低いときは、ゆき 雪のままふ 降ってきます。ちじょうふきん きおん たか 地上付近の気温が高いときは、ゆき 雪はとけて、みぞれやあめ 雨になったりします。

ふゆ 冬は、ちじょうふきん きおん ひく 地上付近の気温が低い

そら うえ 空の上のほうは、じめんふきん 地面付近よりも、きおん ひく かなり気温が低くなっています。じょうくう なつ ひょうしょう 上空は、夏でも氷晶ができています。しかし、ゆき 雪は、ふつう 地上に落ちてくるまでにとけて、あめ 雨になってしまいます。

にほん 日本は、ふゆ 冬になるとさむ 寒くなり、ちじょうふきん きおん どスィー ひく 地上付近の気温が0よりも低くなるのが、おお 多くなります。それで、ゆき 雪はとちゅうでとけないで、ゆき 雪のままふ 降ってきます。

ふゆ 冬のなごり

はるさき 春先まで、つめ ほくせい きせつふう 冷たい北西の季節風がふいているときがあります。ときには、ていき あつ にほんれっとう 低気圧が日本列島のみなみがわ とお 南側を通り、かんとうちほうなんぶ にし 関東地方南部から西の各地にゆき 雪を降させます。これは、はる うつ か 春に移り変わるときの、ふゆ 冬のなごりです。（監修・村山 貢司）

